

2025年12月19日  
公益財団法人東京2025世界陸上財団

## WAが定める大会の持続可能性評価「Athletics for a Better World Standard」において東京2025大会が最高評価を獲得！ —世界陸上競技選手権大会として史上初の受賞—

東京2025世界陸上は、この度、世界陸連（ワールドアスレティックス、WA）が定める大会の持続可能性を評価する「Athletics for a Better World Standard」（ABW基準）において、最高評価である「プラチナ認証」を獲得いたしました。このABW基準は、持続可能な運営における大会の成果を測るものであり、2024年より運用しております。ABW基準によるプラチナ認証は3例目であり、世界陸上競技選手権大会としては史上初の受賞となりました。

### 【ABW基準（Athletics for a Better World Standard）とは】

- ✓ WAの持続可能性戦略の一環として、持続可能なイベントを管理するためのシステムを開発し、その仕組みに基づいて、イベントを持続可能に運営するための指標（ABW基準）を策定
- ✓ 2024年から本格的に運用を開始
- ✓ WAの持続可能性戦略に定められた、重点6分野（リーダーシップ、持続可能な生産と消費、気候変動と炭素、地域環境と大気環境、グローバルな平等、多様性・アクセシビリティ・ウェルビーイング）に沿って採点し、得点状況によりランク付けされる

- ・ **プラチナ** : **108ポイント（90%）**
- ・ ゴールド : 96ポイント（80%）
- ・ シルバー : 84ポイント（70%）
- ・ ブロンズ : 72ポイント（60%）
- ・ 認定イベント : 40ポイント



### 【WAセバスチャン・コー会長コメント】

「東京2025世界陸上は環境への影響を減らし、社会的価値の最大化を重視してきました。その成果として、陸上競技にとどまらず、あらゆるスポーツイベントが参考にできる持続可能性のモデルを確立するとともに、この大会は今後の国際スポーツイベントにおける新たな高い基準を示しました。」

### 【東京 2025 大会における ABW 基準プラチナ認証取得の評価ポイント】

環境負荷の低減と社会的・経済的効果の最大化に向けた大会の様々な取組が認められたものであり、ABW 基準において評価されたポイントは以下のとおり。

- ・国立競技場周辺に次世代型太陽電池「Air ソーラー」を搭載した庭園灯を設置するとともに、動画の制作・発信を行うなどの PR を実施
- ・SAF（持続可能な航空燃料）を推進するため、東京都の「家庭の油回収キャンペーン」と連携し、大会を契機とした廃食油回収を促進
- ・大会スポンサーのレボインターナショナルと連携し、国立競技場に設置する放送事業者用の仮設発電機に国内最大級の規模となる 100% バイオ燃料を使用（世界陸上大会で初の取組）
- ・WA スポンサーの大塚製薬と連携し、国立競技場や練習会場でペットボトルを回収し、新たなペットボトルに再生する「ボトル to ボトル」水平リサイクルを実施（世界陸上大会で初の取組）
- ・WA スポンサーの Honda より、電気自動車等の様々な低環境負荷車両が提供され、大会関係者の輸送等に使用。マラソン競技時に使用した燃料電池自動車には大会スポンサーの東京ガスから提供されたグリーン水素を活用（世界陸上マラソン競技で初の取組）
- ・WA スポンサーの森永製菓と連携し、ジョギングをしながらゴミ拾いを行うプロギングを実施
- ・国立競技場内の関係者ラウンジや選手宿泊施設の食事のほか、選手や大会関係者へ提供した弁当等のメニューで、ヴィーガン・ベジタリアン等、多様な食習慣・食文化への対応を行い、地元食材をメニューの一部に活用

### 【受賞を受けての世界陸上財団 尾縣会長コメント】

「東京 2025 世界陸上競技選手権大会におけるサステナビリティへの取組が WA から高く評価され、『Athletics for a Better World Standard』で最高評価のプラチナ認証を取得できたことを、心から誇りに思います。これは、東京都、日本陸連、スポンサーをはじめ、大会に関わっていただいたすべての皆様と力を合わせ、持続可能な大会運営を実現してきた成果です。今大会において、スポーツと持続可能性の融合を強く発信できたことは、本大会の大きなレガシーとなります。SAF（持続可能な航空燃料）、次世代型太陽電池『Air ソーラー』、バイオ燃料や低環境負荷車両の活用、さらに『ボトル to ボトル』や『プロギング』など、持続可能な大会の実現に向けた取組は、今後のスポーツイベントのモデルになると信じています。この受賞を励みに、私たちはこのレガシーを未来へ継承してまいります。」

### 【東京 2025 大会におけるサステナビリティに関する取組】

「東京 2025 世界陸上サステナビリティプラン」に基づく主な取組は別添に記載のとおり。取組の成果や実績等については今後リリース予定の「東京 2025 世界陸上サステナビリティレポート」に掲載。

## 本プレスリリースに関する問い合わせ

公益財団法人東京 2025 世界陸上財団 広報担当  
E-mail : [press@WATokyo25.com](mailto:press@WATokyo25.com)

### 東京 2025 世界陸上公式サイトはこちら

WEB <https://www.jaaf.or.jp/world-athletics-championships-tokyo25/>  
X <https://twitter.com/WATokyo25>  
Instagram <https://www.instagram.com/wchtokyo25/>  
YouTube [www.youtube.com/@WATokyo25](http://www.youtube.com/@WATokyo25)



WEB



X



Instagram



YouTube

### 東京 2025 世界陸上競技選手権大会の概要

主催	ワールドアスレティックス（WA、世界陸連）
大会期間	2025年9月13日（土）から21日（日）まで 9日間
会場	国立競技場ほか（マラソン、競歩は都内で実施）
参加選手数	約 2,000 名
参加国・地域数	約 200 カ国・地域
種目数	49 種目



We hereby certify that

# WORLD ATHLETICS CHAMPIONSHIPS TOKYO 25

has achieved the

# ATHLETICS FOR A BETTER WORLD PLATINUM STANDARD



## ■ 次世代型太陽電池「Airソーラー」の活用（東京都）

国立競技場周辺にAirソーラーを搭載した庭園灯を設置するとともに、PR動画の制作・発信

## ■ SAF（持続可能な航空燃料）の活用（東京都）

東京都の「家庭の油回収キャンペーン」と連携し、大会を契機とした廃食油回収を促進

## ■ バイオ燃料の活用（レボインターナショナル）

国立競技場に設置する放送事業者用の仮設発電機に100%バイオ燃料を使用（世界陸上大会で初の取組）

## ■ ボトルtoボトルの実施（大塚製薬）

国立競技場や練習会場でペットボトルを回収し、新たなペットボトルに再生する「ボトルtoボトル」水平リサイクルを実施（世界陸上大会で初の取組）

## ■ 低環境負荷車両の活用（Honda）・グリーン水素活用（東京ガス）

電気自動車など、環境負荷の低い公式車両の提供を通じ、持続可能な大会の実現に貢献。マラソン競技時に使用した燃料電池車にはグリーン水素を活用（世界陸上マラソン競技初）

## ■ プロギングの実施（森永製菓）

環境配慮に係る意識醸成を図るとともに、国立競技場周辺の環境浄化を目的として、国立競技場周辺でプロギングを実施

